

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

神奈川県

学校名

藤沢総合高等学校

人権課題

子供

対象学年・
取り扱った教科等

1～3年次社会福祉委員会

目標・人権教育のねらい

児童を取り巻く世界的課題について考え、視野を広げるとともに関心を高め、その解決のために自身で取り組める行動ができるようになる。

実施した内容

世界食糧デーの期間に合わせて、1～3年次の社会福祉委員が、NPO法人Table For Twoの取組みを紹介し、「おにぎりアクション（おにぎりの写真を投稿すると、アフリカの学校に給食を支援できる取組み）」のポスターを掲示し、呼びかけを行った。

工夫した点

各教室にポスターを掲示し、ホームルームで呼び掛けた。また、同時期に行われた文化祭でおにぎりの販売を行う団体の協力を得て、模擬店でポスターを掲示して、多くの生徒が投稿できるように働きかけた。

他教科との
関連

公共の授業の、社会参画と自己形成の単元において、NPOの活動と関連付けて説明した。

事業成果

- ・知識的側面：いわゆる寄付行為とは別の形の支援方法を知ることができた。
- ・価値・態度的側面：授業での振り返りにおいて、児童労働や食の偏重に関して興味関心を持った記述が見られた。
- ・技能的側面：文化祭の模擬店クラスにおいて、多くの生徒の投稿を促すための展示工夫を行うクラスが見られた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

神奈川県

学校名

藤沢総合高等学校

人権課題

障害者

対象学年・
取り扱った教科等

1年次 産業社会と人間

目標・人権教育のねらい

障がいのある同世代の生徒との関わりを通じて、他者理解を深めるとともに、共生社会への関心を高める。

実施した内容

- ①鎌倉養護学校・藤沢養護学校の支援担当教諭による出張授業の実施。（事前1時間、当日2時間）
内容は、それぞれの学校の学び、障がいについて考えるアクティビティ。
②鎌倉養護学校・藤沢養護学校高等部において、特別支援学校の午前の授業に参加（20名）し、クラスで事後報告を行った。

工夫した点

- ①クラスを2分し、それぞれの特別支援学校の話聞いた後、お互いに伝え合う活動を行うことで、主体的で深い学びにつなげた。
②実際の特別支援学校の授業に参加することで、体験的な深い学びにつなげた。

他教科との
関連

「公共」の授業において「基本的人権」について学び、具体的事例として、障害者雇用や合理的配慮について取り上げ、関連を意識づけた。

事業成果

- ・知識的側面：①出張授業の振り返りアンケート「障がい者への支援方法について新たに知ることができた」
→95%以上の生徒が回答。
- ・価値・態度的側面：②特別支援学校授業に参加「参加する前と後で、障がいに対する認識の変化はあったか」
→変化があった=63% 変わらない=37%。
※「変わらない」の回答の内容は、従前から障がいへの理解があったという意味で回答していた。
- ・技能的側面：②出張授業の振り返りアンケートにおいて、「相手の立場に立って接する」という内容の記述が多数見られた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

神奈川県

学校名

藤沢総合高等学校

人権課題

アイヌの人々

対象学年・
取り扱った教科等

2年次 課題研究・研修旅行

目標・人権教育のねらい

江戸幕府のアイヌ政策について触れながら、アイヌ文化への理解を深めることを通じて共生への意識の向上を図る。

実施した内容

- ・ 課題研究においては、「松浦武四郎」の映像資料を視聴後、研修旅行の事前学習に取り組んだ。
- ・ 研修旅行においては、「ウポポイ（民族共生象徴空間）」の見学により、より深くアイヌについて経験的に学んだ。

工夫した点

事前学習を通じて、アイヌ文化への興味関心を高めたうえで、実際にウポポイ（民族共生象徴空間）を訪問して体験的に理解を深めることができたようにした。また学習成果発表会等を通じて、学習の成果を表現する機会を確保した。

他教科との
関連

「日本史A」における江戸幕府の政策、明治政府の政策をふまえて、事前ワークシートの作成を行った。

事業成果

- ・ 知識的側面：アイヌの人々について「知っている・少し知っている」2年次生...旅行前**53%**→後**58%**。
- ・ 価値・態度的側面：アイヌの人々について「関心がある・少し関心がある」2年次生...旅行前**44%**→後**50%**。
- ・ 技能的側面：研修旅行後の振り返り（記述式）で、「アイヌの人々の文化」について「理解できる」「尊重できる」という内容を記述した生徒が多数見られた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

神奈川県

学校名

藤沢総合高等学校

人権課題

外国人

対象学年・
取り扱った教科等

2、3年次 日本史A

目標・人権教育のねらい

外国人の人権について、歴史的側面から学び、今日的課題として理解する。

実施した内容

・日本の朝鮮支配：日朝修好条規～日清戦争～韓国併合～皇民化政策

工夫した点

教科書のコラムや風刺画の資料を用意し、台湾の植民地化政策とも比較しながら、記述させ、さらに現在も在日朝鮮人が多く暮らしていることについて思考を促し、彼らの日本での処遇についても理解を深める。

他教科との
関連

「公共」における外国人の人権課題、「世界史A」における帝国主義と日本のアジア進出と関連付けて、多面的に理解させる。

事業成果

授業後の振り返りを実施

- ・知識的側面：在日朝鮮人が多く存在する理由について「理解できた」の回答が95%超。
- ・価値・態度的側面：在日朝鮮人の現在の課題について「関心が高まった」の回答が95%超。
- ・技能的側面：いわゆる嫌韓論やヘイトスピーチについて、「許容されるものではない」「適切ではない」という内容の記載が多くみられた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

神奈川県

学校名

藤沢総合高等学校

人権課題

ハンセン病患者等

対象学年・
取り扱った教科等

1～3年次 夏季連携講座

目標・人権教育のねらい

総合学科高校の特色である夏季連携講座を活用して、経験的に共生社会について学ぶ。

実施した内容

夏季連携講座として「国立ハンセン病資料館スタディツアー」を企画し、夏季休業中に実施した。

工夫した点

事前下見を行い、資料館職員・資料館学芸員と打ち合わせをして、生徒が関心を持てるような流れを検討した。また、併設する多摩全生園の敷地見学は、感染症拡大防止のため立ち入りができないため、建物等を実際に眺めることができる場所を事前に探した。

他教科との
関連

「公共」「政治経済」の基本的な人権の単元と関連付けて企画した。

事業成果

参加者振り返りアンケートより

- ・知識的側面：訪問して、ハンセン病への理解を深めることが→「とてもできた」=100%の回答。
- ・価値・態度的側面：訪問してハンセン病問題の関心が→「とても高まった」=95%の回答。
- ・技能的側面：生徒の記述より、「正しく理解することの大切さを知った」「ハンセン病に限らず無知が人を傷つけると感じた」等、知ることの大切さと、知った後に正しく行動することの重要性をほとんどの生徒が回答していた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

神奈川県

学校名

藤沢総合高等学校

人権課題

インターネットによる人権侵害

対象学年・
取り扱った教科等

1年次 LHR

目標・人権教育のねらい

テクノロジーに関する倫理的・文化的・社会的問題を理解し、責任を持って、かつポジティブにそれを利用するための「情報技術の利用における適切で責任ある行動規範」を学ぶ。

実施した内容

外部団体と連携し、オンライン形式の授業を実施した。フェイクニュースをテーマに、ネット上にある「情報」の真贋を見極めるためのコツと対策を学習した。映像や資料をもとに、なぜネット上には「信用できるかあやしい情報」がたくさんあるのか、正しい情報かどうかを見分ける方法とは何か、日常生活の中で適切に、前向きにネットを活用するにはどうしたらよいか考えた。

工夫した点

オンライン形式で実施した。途中生徒の意見をZoomチャットに書き込み、各クラスの意見共有と講師が意見を吸い上げ、コメントした。

他教科との
関連

「公共」や「社会と情報」における個人情報やプライバシーの単元と関連付けて実施した。また、日常生活の指導においても繰り返し伝えるべき内容であった。

事業成果

- ・知識的側面：インターネットによる人権侵害について、「知っている・少し知っている」が実施後に70%の回答。特に「知っている」については、21→23%に上昇。
 - ・価値・態度的側面：「関心がある・少し関心がある」が63%→72%に上昇。
 - ・技能的側面：リモートを通じた人権教育活動について、スムーズに取り組む生徒が増えた。
- 生徒の振り返りにおいても、「新しい気づきがあった」という内容の記述が多数見られた。

令和4年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

神奈川県

学校名

藤沢総合高等学校

人権課題

性的指向、性自認

対象学年・
取り扱った教科等

1～3年次 課題研究発表会

目標・人権教育のねらい

お互いの個性を尊重しながら、自分らしく生きるための力を醸成する。また、学んだことを多くの人に分かりやすく伝えることで自身の理解を深める。

実施した内容

課題研究発表会での発表「LGBTQの結婚式衣装について」「同性婚可決への道のり」

工夫した点

人権課題とテーマとした課題研究に取り組んだ生徒を、発表者とする事で多くの生徒に成果を共有した

他教科との
関連

「公共」や「政治経済」の授業はもちろん、2年次「課題研究」、1年次「産業社会と人間」の表現の単元で、下級生が先輩の発表を見ることで、人権意識向上につながった。

事業成果

振り返りより

- ・知識的側面：LGBTQについて理解が深まったとの声が多数見られた。
 - ・価値・態度的側面：「多様な価値観を認めている。尊重している」が実施前92%→実施後95%。
 - ・技能的側面：LGBTQの方への接し方について、新たな発見があったとの声が見られた。
- 発表を通じて、教員側も人権意識が潜在的に高い生徒が多く存在していることを知る機会となった。